【まちクラブプレゼン 5/7】子供が「正しく努力」できるために、僕たちがするべきこと

全国のサッカー指導者に届けたい「学習理論」とは？

Ryusuke Nakamura
Dec 7, 2016 · 12 min read

子供が「正しく努力」できるために
僕たちがやるべきこと
【毎日更新】まちクラブプレゼン 5/ 7

昨日の記事では、スーパー指導者が、

・なぜ、どうやって面白い練習を考えているのか？

・どうすれば、スーパー指導者の「ものの観方」を手に入れることができるのか？

について書きました。

↓まだ読んでいない方はこちら

【まちクラブプレゼン4/7】ス…
全てのサッカー指導者に届けたい…
blog.toiee.jp

スーパー指導者の
「ものの観方」を学ぼう
【毎日更新】まちクラブプレゼン4/7

それでは、早速！DAY5 「子供が正しく努力できるために、僕たちがすべきこと」です。

・・・

「コーチング」するなら「教えちゃ絶対にダメ」なんでしょ病！？

こんな興味深いタイトルの記事を発見しました。

「コーチング」するなら「教え…
先だって、あるマネジャーさんとお…
bylines.news.yahoo.co.jp

内容をざっくり紹介すると

- 「ティーチング」や「コーチング」など「どう教えるか？」の議論って多いよね
- コーチングは絶対に教えてはいけないというけど、正直教えないと無理なときあるよね
- 一番大事なのは、部下の状態を見て、ティーチングもコーチングも使い分けることだよね

という話です。

この記事を読んで、すごく共感しました。

僕も以前、「コーチング = 絶対に教えてはいけないこと」だと思っていたせいで、

ひどい目にあったことがあります。

おじちゃんに、ツバをかけられました

2年前、toieeLabのiphoneで作る動画ワークショップに
70歳前後のおじちゃんが参加してくれた時です。

その時、おじちゃんに「動画の撮影ボタンがわからないんだけど、どここを押せばいいの？」と聞かれた時

僕は**「操作の仕方を教えてしまっては、おじいちゃんの成長には繋がらない。教えちゃダメ。絶対。」**と心に誓っていたので

「どこでしょうね〜」と質問返しをしていました。

おじいちゃんは数秒考えた後に「うーん、わからん、お兄ちゃんどこ？」

と聞かれたのですが、

僕は「どこだと思いますか〜」の一点ばりをしていました。

すると、おじちゃんは黙ったままだんだんプルプル震え出して、「俺はわからんから聞いとるんじゃい！」

と口からツバが出る勢いで怒鳴ってました。

学ぶ場の立場になって考えてみると、

僕は「どう教えるか？」ばかり考えて、おじちゃんの気持ちになっていませんでした。

今、改めて考えていれば、おじいちゃんは

「僕は知っているけど、教えませーん」というふうに取ることもできるし、確かにイライラしてくる気持ちもわかります。

もし、相手の状態を考えることができていると、

「僕は答えを知っていますがけど、ここで答えを教えてしまうと家に帰った時に大変じゃないですか？」

「かわいい孫に、撮影した動画を見せてと言われた時に、どこに保存したのかわからなかったら子供にがっかりされるかもだし、、」

「教えることはできるけど、それよりは欲しい機能を自分で見つける方法を一緒に探求しませんか？」

と提案することもできたのではないかと思います。

そうしておけば、おじちゃんにも「じゃあ、やってみようかな」とキレられずに済んだかもしれません。

つまり「どうやって教えるか」ではなく、「どうやって学んでいるか？」を見る能力が必要です。

生徒の状態をどうやって観るか？

「生徒を観るのが大事！と言われても、具体的にどうやって観るの？」

と思うかもしれません。

ここでもFILM理論を使って、分析することができます。

具体例を使って説明してみます。
塩釜にいた子供たちを例にして見ていきましょう。

例1 : 靴がとにかく飛ぶ小学3年生の例

僕に勝った小学3年生。蹴った瞬間に靴がもう見えない。スゴい。

エネルギー溢れる元気な子供だったので、おそらく「誰よりも飛ばす！絶対一番になる！」と思っていたのではないかと思います。

思いっきり蹴っていました。

めちゃめちゃ飛んでました。

多分彼は、1回めっちゃ飛んだことに満足していないと思います。もっと次のチャレンジを考えていたとします。

2回目の期待する結果は、もっと飛ばす方法を見つけること

例えば、助走をもっとつけて蹴ってみたとします

やるたびにどんどん飛距離も伸びていきます。

次からは、助走をつけるのはもちろん、コントロールも、、

彼は、「もっと遠くに飛ばすために」何回も靴を飛ばして、どんどん飛距離を伸ばしていました。

1回、5回、10回と繰り返す中で、

「もっと助走をつけてみたら、、」

「今、かなり飛んだけど、なぜだ？」

「力を抜いてみたらどうなるんだろう？」

と、ありとあらゆる方法を試していたのだと思います。

例2 : 小学3年生に負けた僕の例

写真で見ると、飛ばしたはずの靴が目の前に落ちているのが、、ひどい

負けたくないというよりは、負けるわけないだろうと思っていました。

思いっきり蹴ってみました

まさかの敗北

ここで、僕は負けたことを素直に認めることができませんでした。

1周目で何も学んでいないので、期待する結果は先ほどと同じ

行動も同じ

実際の結果も同じ

負けを認めることができず、何回も同じサイクルを回していると、全く何も変化していないことに気がつきます、すると

僕には才能がないと思いました。だって一生懸命頑張ったって小学3年生に負けるんですから、、

「才能がない」と思っていたところに、小幡さんがやってきて、「中村さんは、軸足と蹴る足を振るタイミングが1,2になってるんだよ」「うまい人は、1のタイミングで両方やるんだよ」と声をかけてくれました

自分では原因がわからなかったのですが、小幡さんがアドバイスをしてくれたので、とりあえずの仮説を立てることはできました

仮説が立ったので、次のサイクルに移ることができました

1リズムで蹴ってみました

さっきよりは飛んだけど、まだ負けている

さっきより飛んだってことは、才能がないわけではなく、何か足りないだけ。でも何が違うかわからないから、違いを知りたい。

変なプライドを投げ打って、小学3年生のフォームを見て見ることにした